



乳がん検診について



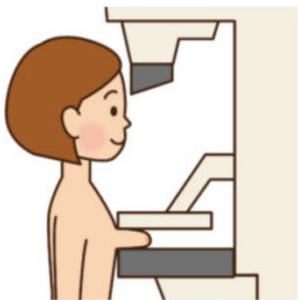
健診センターでは、年齢に応じてマンモグラフィ検診や乳腺エコー検診を施行しています。それぞれのメリットや内容を確認して、乳がん検診を受けましょう。

乳がん検診の種類と料金 * 年齢により検査の種類が変わります *	組合員	一般
乳腺エコー	2,800 円	4,200 円
マンモグラフィ検診 (1 方向・50 歳以上)	3,800 円	5,700 円
マンモグラフィ検診 (2 方向・50 歳未満)	4,100 円	6,150 円
マンモグラフィ + 乳腺エコー	5,600 円	9,000 円

生協病院健診センターの乳がん検診実施日 月曜日～土曜日 午前中

- 乳がん検診には「組合員検診」「市町村検診」「個人検診」「職場検診」があります。自治体や職場の保険により変わります。詳しくは生協病院健診センターへお問い合わせください。
- 自覚症状がある場合は、保険診療での検査になります。医療機関にお問い合わせください。

【マンモグラフィ検査】



マンモグラフィ検査ではセルフチェックでわかりにくい小さなシコリや、乳がんの初期症状である微細な石灰化を見つけることができます。日本人女性に多いとされる、高濃度乳腺は画像全体が白く写ってしまうため、乳がんがあっても見つけにくい傾向があります。がんの発症リスクも高くなるので、高濃度乳腺であると判断された場合はマンモグラフィだけではなく、乳腺エコーも併用して受けましょう。

【乳腺エコー検査】 *20代の方には乳腺エコー検査をお勧めしています*

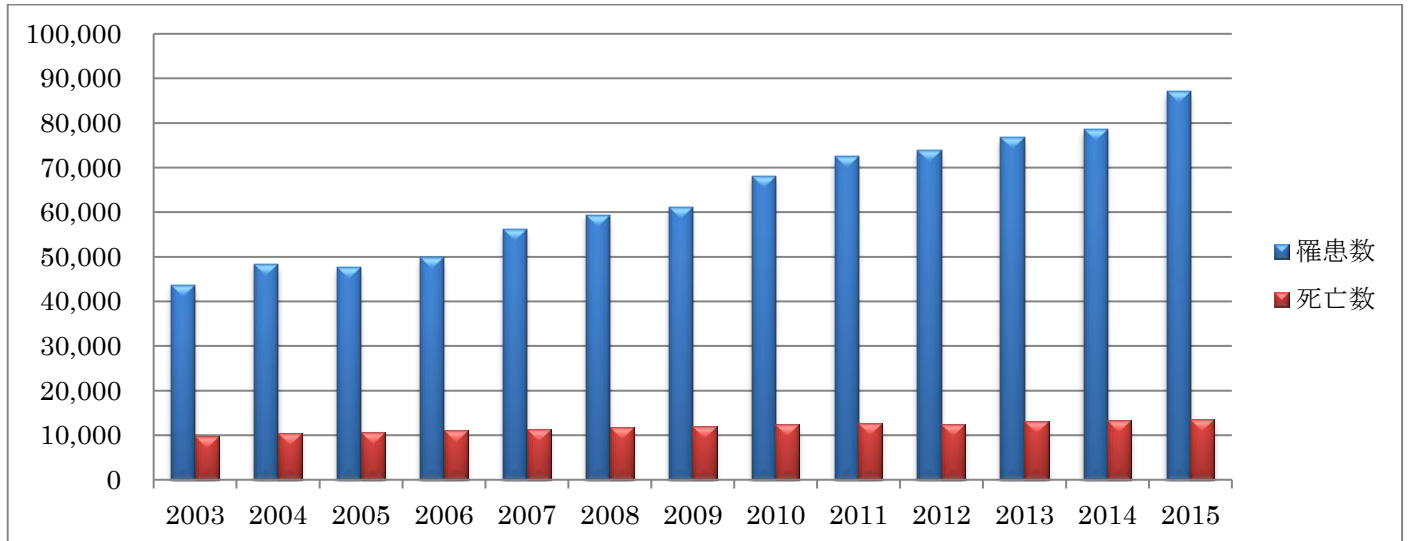
X線を使わない検査で、乳房に超音波をあて乳腺の状態を調べる検査です。痛みもなく5～10分程度で終わります。妊娠中や授乳中の方でも受けることができます。手で触れないようなしこりの発見も可能で、乳房のしこりが良性か悪性かを判断するのに有効な検査となっています。



2003年～2015年 乳がんの罹患率と死亡数

資料：国立がん研究センター がん対策情報センターがん「登録・統計」

乳がんは、2011年以降は毎年7万人以上、2015年になると8万人以上が発症しています。厚生労働省が発表した「人口動態統計」では、2018年の乳がんによる死亡数は14,285人〔確定数：女性〕と増加し続けています。35年前と比べると3倍以上になっていて、毎年1万人以上の方が乳がんで亡くなっています。高知県の女性は11人に1人が乳がんにかかっています。

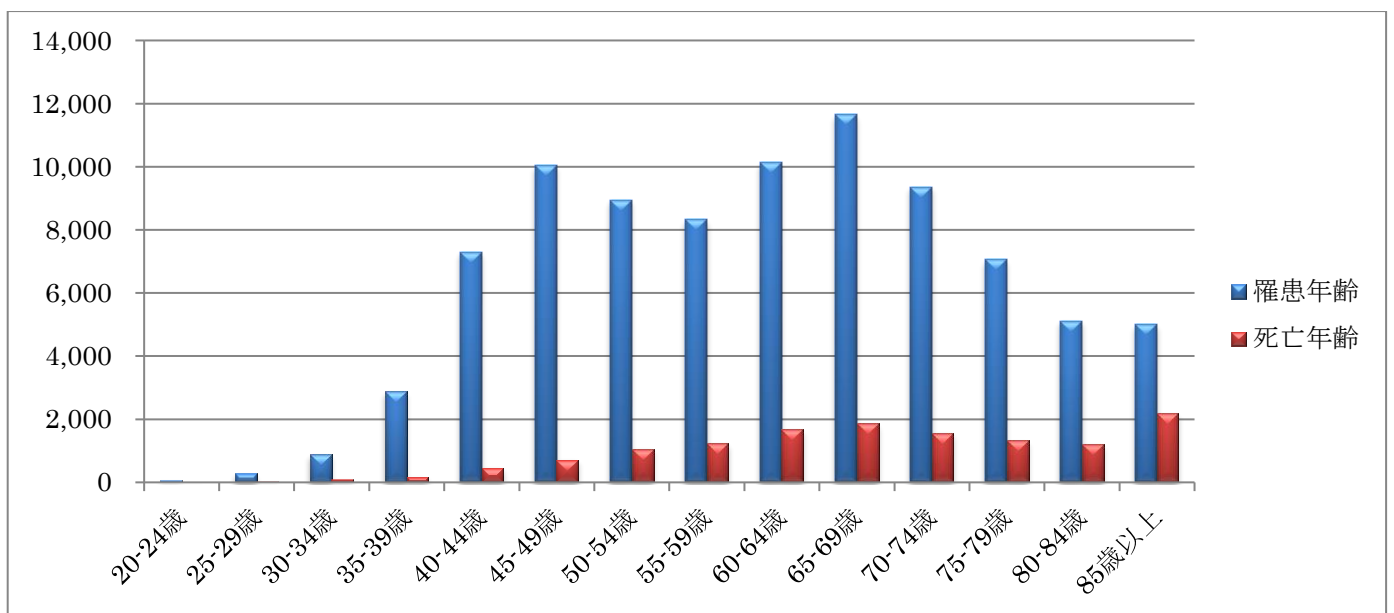


乳がんは年々増加し、女性が罹患するがんの第1位になっています。

2015年 乳がんの罹患年齢と死亡年齢

乳がんは30歳代後半から増えてきて、40歳代後半にピークがあり、70歳を過ぎてもそれほど減りません。20代で患う人もいますので、若い時から関心を持つことが大切です。

初期のころは、自覚症状がほとんどありませんが、そのまま放置していると全身に広がっていきます。

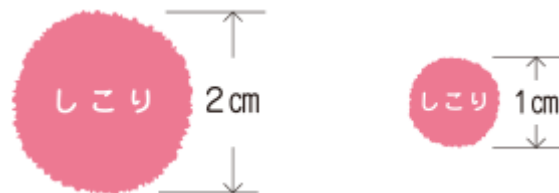


女性の30歳～64歳では、死亡原因の1位は乳がんです。

はじめよう！毎月しっかりセルフチェック

♀ 20代から月に1度のセルフチェックを心がけましょう!!

自分の胸の状態を見て触って知っておくことで、些細な変化に気付くことができるようになります。自分で触って偶然見つかる乳がんのしこりの大きさは2 cm 以上ですが、セルフチェックを習慣にすると1 cm の大きさにも気付けるようになります。



♀ 早期発見・早期治療

乳がんを早期に発見し、早期に治療を始めることができれば、乳房温存療法も可能になり治療後の生活の質を下げることが無く生活できると言われています。

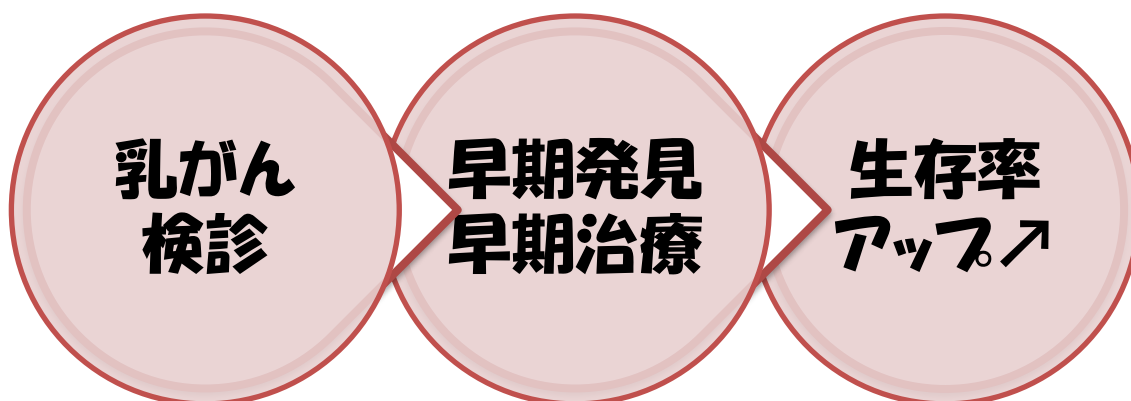
♀ 40歳を迎えたら1年に1度はマンモグラフィ検診を受けましょう

症状がなくても1年に1回は受けていただくことをお勧めしています。

♀ 血縁関係の方で、乳がんや卵巣がんにかかった方がいる方

乳腺専門医と相談の上、乳腺エコー検査を検討してみてください。

乳がんは早期発見・早期治療で9割以上の方が治ると言われています。



「私は大丈夫！！」と想着いても、自分のために、周りの大切な人のために、1年に1度は乳がん検診を受けましょう。